

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700686		
法人名	有限会社さくらコーポレーション		
事業所名	グループホーム里の家		
所在地	岡山県浅口郡里庄町里見8004-2		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 2 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700686-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和5年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念「利用者一人ひとりの思いに寄り添い 笑顔のある その人らしい暮らしができるよう支援します」家族が安心でき 喜んでいただけるサービスを提供します」「スタッフと共に やりがいと誇りをもち日々研鑽していきます」「地域とつながり 地域に必要なとされる事業所を目指します」・家族に写真入りのお便りや毎月ご様子を伝えている。・事故や些細なことでも変化があれば随時報告している。・毎日ラジオ体操や棒体操や、口腔体操、歩ける方には歩行訓練を行っている。・脳トレ、レクリエーション、天気の良い日には個別に1対1で散歩を行い身体機能の維持に努めている。・入居者様が出来る家事をスタッフと一緒にこなしている。・コロナ禍でも感染対策を行いご家族が面会出来る機会を設けている。・入居者様の状態に応じて随時医療機関へ相談やご家族への報告を心掛けている。・協力病院や協力歯科医院等の医師による訪問診療が実施されている。・協力病院以外の通院もご家族と協力しながら実施している。・体温・血圧・排泄等の異常についての早期発見に努め、医療連携を図り病状の悪化を防いでいる。・ご本人やご家族の思いを大切に看護職・介護職が情報交換をしながらケアプランを作成している。・排泄の尊厳を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「利用者一人ひとりの思いに寄り添い、笑顔のあるその人らしい暮らしが出来るように支援します」を掲げ、日々ケアに努めている。入職した職員も同じケアが提供できるよう、利用者各々の支援方法を細かく記載し、いつでも把握できる状態にしている。利用者が、いつまでも自力で活動できるよう残存機能の維持に努め、主に筋力強化に繋がるレクリエーションを実施している。午前中は、ラジオ体操と歩行訓練を行い、午後からは棒体操を実施している。さらに、雨の日以外は、散歩に出かけている。歩行器を使用している利用者も、安全面に配慮しながら一対一での対応をしている。職員同士は仲が良く、互いに協力しながら支援に努めている。休憩も1時間取得してもらい、働きやすい環境作りにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で状況に応じた感染対策を行い面会ができる機会を作り家族とのつながりを支援している。体調に変化があった時や事故が起きた時もその都度ご家族に連絡して安心して頂けるように真摯な対応を心掛けている。	利用者の思いに寄り添い、この事業所で過ごせて良かったと思ってもらえる事業所を目指し、その思いを理念に掲げている。ホームページにも理念を記載し、共感して入職した職員もいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流ができにくいなか近くの銀寿観音に参拝やつばきの丘公園にドライブや天満神社に初詣に行くことが出来き気分転換が図れた。日々の散歩で地域の方へ会った時挨拶を交わしながら暮らしている。	コロナ禍になる迄は、歌、踊り、大正琴等のボランティアが訪れ交流を図っていたが、現在は中止している。日課の散歩時に、地域の人と挨拶を交わしている。近隣の人達と駐車場の貸し借りをし、協力関係を築いている。	地域との更なる交流を深め、互いに気兼ねなく助け合いができる事業所を目指して欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の方やそのご家族が見学に来られた時や電話でも困っていることについて相談に乗っている。見学されて入居を申し込まれる方もおられる。里庄町での物忘れ相談日の案内や認知症介護者の会～あったかい～の案内を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで中止することが多かった。ご家族、地域のメンバー、行政の参加で行事や近況報告を中心に行っている。また避難訓練や消火訓練を行い、参加者全員で振り返りを行い、参加者からのアドバイスや反省を次回訓練に活かしている。	運営推進会議では、行事や事業所の近況を伝え、意見をもらっている。また、この地に長年住んでいる運営推進会議のメンバーが居て、過去の災害時の状況などについてのアドバイスをしてくれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナワクチン接種やその他、担当者で連絡を密に取りケアが円滑に行くよう取組めた。笠岡市や浅口市の方から入居の申し込みがあった時、必ず里庄町に報告・相談を行うようにしている。その他制度等の連絡、県や市町村主催の研修会の連絡を受けて取り組んでいる。	市の担当者には、困り事や不明点があれば相談し、対応をしてもらっている。例えば、雨の日の後、水路の水が溢れて畑まで水がくることを相談すると、水路の修繕をしてくれた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない身体拘束では家族の意向と説明を行ない、毎月検討委員会を開いて記録に残している。スタッフが傍で見守る数時間でも解除できる方向に向けて検討している。家族の意向をくみ取りながら話し合っている。	研修講師を招いて、身体拘束の勉強会を実施し、身体拘束についての理解を深めている。利用者が外へ出て行こうとする時は、他の職員と協力しながら一人の職員が付き添い、散歩に行く等の対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の人権の擁護、虐待の防止等の観点から、虐待の発生又はその再発を防止するための会議の開催、指針の整備、研修の実施、担当者を定めて取り組みたい。不適切なケアや声かけなどがあれば全員でカンファレンスを行い不適切なケア等の虐待防止に務めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業の研修、認知症実践者研修等の研修、キャリア形成訪問指導などで習得する機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時本人やご家族が不安や疑問などを十分表せるような働きかけを行い、丁寧に説明している。利用料金、今後起こりうるリスク、重度化や看とりについての指針、医療連携体制についての説明をし同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	安全・安心第一のもとで本人、ご家族ともに、満足してもらい、ここで暮らしてよかったと思われるホームをめざしている。何かあれば随時連絡をしており、意見や要望を伝えやすいようにしている。意見箱も設置している。意見があれば真摯に対応している。	面会時や電話で要望を尋ねている。使いやすい軽量の歩行器をレンタルして欲しいと要望され、対応をした。また、自らの力で食事を取って欲しいとの要望があり、食器等を変更し食べやすい工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定期的なスタッフ会の開催や随時のミーティングで意見を聞く機会がある。早めに検討し反映させている。	職員会議で意見交換を行い、業務の見直しをしている。夜勤者に日中の様子の申し送りがしにくいとの意見があり、申し送りノートを作成し改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場に来ており、スタッフ会に必ず参加している。スタッフの業務や個別の悩みを聞くなどをして把握している。年1回の昇給や年2回の賞与支給・人事評価を行うようにしている。スタッフの資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの段階に応じて必要な研修を受講できるように計画を立てている。コロナで外部研修に参加できる機会が減っているが、内部研修の機会を作っている。研修報告をスタッフ会で発表してもらったり、報告書を全スタッフが閲覧できる仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで研修やセミナーの機会が減っている。市町村主催の同業者向けの研修会やBCP研修等に参加し折に、学習会や交流を持つことによりサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来るだけご本人の生活歴やご家族の思いをしっかりと聞き取り、スタッフと共有している。不安な気持ちを受け止めながら徐々に環境になじんでもらい信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族からの要望等の聴き取りを行い、ご本人の必要な情報の収集に努め、家族との信頼関係を築けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・本人のアセスメントを行い、グループホームに適している見極めたうえで、在宅でかかわった包括・ケアマネジャーとの情報を収集しながらサービスにつなげていく対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の個性や思いを把握し、スタッフと一緒に協働して安心できる生活が営むことができる環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍での感染対策をし、面会やラインのビデオ通話を行っている。家族と本人の間に入り、絆を深めれるようにサポートしている。状況に応じて家族との外出支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との電話、手紙のやり取り、面会、訪問散髪等を行ってもらうことで馴染みの人との関係が途切れないよう、支援を行っている。	今年の2月までは窓越しの面会だったが、現在は感染対策をしながら面会を開始した。遠方に住む子どもと連絡が取れず寂しい思いをしていた利用者が居たが、利用者の兄弟と協力し、現在はビデオ電話で交流してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格を理解し、入居者様同士の関係がうまくいくように、スタッフが支援・見守りを行っている。入居者様同士のトラブルが起きた時は最小限に抑えるように仲裁に入りそれぞれの方の傾聴に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用期間終了後もご家族との関係を大切にしている。ご家族が施設に尋ねて来て下さることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に意向を確認している。意思疎通が困難な方には、言葉や表情などからその真意を推し測るようにしている。認知症が進んで、不穏になって拒否があっても本人の意向を大事にして支援している。	利用者に話しかけ、発語ができるような声掛けに努めている。脳トレやレクリエーションを行っているが、毎回本人の意思を確認し無理強いはいないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族から生活歴等の情報把握を行い、入居後も継続できるように支援している。家族にも様子を伝え共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムや過ごし方を理解し、本人の心身状態を看護介護記録に記し、スタッフ全員が共有する。状態の変化やその対応等についてその都度スタッフと相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の関わりの中で、意見を聞き状態に応じた介護計画を立て、モニタリングを行っている。ご家族が来訪時等に意向の確認や状態報告を行い介護計画につなげている。	介護計画は、毎年見直しをしている。モニタリングを毎日実施し、見直しの参考にしている。家族には、面会時に直接要望を尋ねるようにしている。認定調査に立ち会ってくれる家族もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に身体的状況・日々の暮らしの様子や本人の言葉やエピソードを記載している。個々の特記事項や記録をもとに、介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて通院等必要な支援は柔軟に対応し、車椅子対応の車の貸し出しや福祉タクシーの手配を行っている。個々の満足度を高めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問散髪に2か月に1回来てもらい、美容師との会話を楽しまれている。医療面では訪問診療・訪問薬局・訪問歯科・訪問眼科診療の支援も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人やご家族の希望に応じて対応している。専門の病院や医院で診てもらう場合もある。必要に応じて情報提供を行い、複数の医療機関と関係を密にしている。	ほとんどの利用者は、訪問診療をしてくれる協力医がかかりつけ医となっている。専門医療機関への受診は、家族に依頼し受診前に日々の様子を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション瀬戸いこい苑の看護師が週1回木曜日に訪問して入居者の健康管理や薬の管理を行っている。変化や異常に気づいたときは、看護師に報告し適切な指示をもらっている。医療行為をしてもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人の基本情報を記した「救急医療情報シート」を医療機関に提供している。医療機関に状態を尋ねたり、家族にも回復状況等情報交換をしながら、退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を本人・家族等と話し合いを行い説明を十分に行い、重度化に伴い事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。本人家族の意向を踏まえ主治医との連携を図りながら安心して納得した最後を迎えられるように、随時意志を確認しながら取り組んでいく。	入居時に看取りの指針について説明をしている。重度化した場合は、再度家族の意思を確認している。終末期に入院していた利用者の家族から、事業所に戻らせたいと希望し対応した。コロナ禍だったが、可能な限り面会してもらい病院との対応の違いに家族から感謝された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故・異常に備えて、日勤帯と夜間帯の緊急時の行動マニュアルがある。定期的にスタッフ会議で研修を行っている。日頃から異常があれば報告するという習慣で実践力を付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練では消防署の協力を得て夜勤体制や日勤体制などの訓練を行っている。安全な避難経路の改善・消火器の使い方や防火対策改善策をとっている。火災・水害・地震を想定しての避難訓練を実施している。	避難訓練時は、隣接するデイサービスと連携して行っている。また、消防署が消火設備業者が毎回参加してくれ、訓練を実施している。消防署からは、助言や指導をもらい次回の訓練に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちを尊重し個別のケアを行い、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。声のかけ方・名前の呼び方等、その方を尊敬し自尊心を傷つけないような対応に心がけている。	利用者の誇りを損ねないような言葉かけに努めている。例えば、椅子を歩行器と間違える利用者が居る。その際は、「こちらの歩行器の方が使いやすいですよ」と声を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側で決めたこととおしつけず、些細なことでも本人が決める場面をつくっている(したいこと、行きたい所、食べたいメニュー、飲みたい物、する、しない等)。毎日好きな飲み物を選んでもらう機会がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の日課があるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、家事手伝いの役割を持って生活している。その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個性のある支援を行っている。座ってできるペダルこぎの機能訓練や個別に散歩などの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケアを1日3回実施し口腔内の清潔を保ち気持ちよく過してもらおう。着替えは、できるだけ自分で選んでもらっている。家族に衣類を補充してもらっている。理・美容は2ヶ月に1回行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様とスタッフが一緒に食材のチェックをしている。どら焼き等おやつ作りに参加してもらっている。里の家の畑でとれた野菜、家族に頂いた野菜等を使う時がある。お盆拭きやお茶葉詰めをしている。	畑で採ったり、家族からもらった野菜を汁物に加え、具だくさんにしている。誕生日会では、おやつを手作りしている。利用者には、仕入れた食材の確認やお盆拭きを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食前に口腔体操をとりいれ誤嚥防止に努め、一人一人の体調と1日の食事・水分摂取量を把握している。個々に食事形態を検討し食が進むよう工夫したり1000ml以上の水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけしながら見守りをし、できない方には毎食後のケアを行っている。毎食前に口腔体操を実施し嚥下障害による肺炎の防止にも努めている。夜間は義歯をホリデントにつけ、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを知り時間を見計らって誘導している。トイレでの排泄ができるように支援している。紙パンツ・パット類も本人の状態に合わせている。可能な方は、布パンツ着用を支援している。	トイレで排泄ができるよう、定期的な声掛けをしている。おしめの利用者も、体調が良い日は、二人介助でトイレで排泄をしてもらっている。汚れた紙パンツをそのまま干す利用者も居るので、気づかれぬよう交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、便秘の方には十分な水分補給や運動を促している。日常的に繊維質の多い食品やヨーグルト・牛乳等提供している。排便が3日～4日目に、下剤を使用している方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	見守り程度の方、一部介助の方は普通浴、重度の方はリフト浴で安全に負担なく入浴している。基本的に午後から週3回入浴している。入浴を拒む方に対しては、無理強いせず言葉かけや対応の工夫をしている。	利用者の希望する入浴支援を記載し、職員間で共通理解を図っている。利用者が好きなテレビ番組がある日は、入浴日を避けるようにしている。入浴拒否の利用者も、足浴から始める等、無理強いはいしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促している。天気の良い日には散歩や日光浴を勧めている。21時頃まで自由にホールや居室でテレビを見ながら過ごす方もいる。睡眠状況を把握し、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の効能について理解できるようにしている。薬の説明書もファイルで保管し閲覧できるようにしている。服薬チェックを徹底している。薬の変更による状態変化も確認できるように記録をとり、医師・薬剤師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が得意とすること、出来る事をお願いして、感謝の言葉を伝えるようにしている。台所の手伝い、おやつ作り、洗濯物干しや洗濯物を畳む、繕い物をするなど、個々の力を生かした作業を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日はスタッフと近所に散歩に行き運動不足の解消と気分転換が図れるように支援している。ストレス発散、五感刺激のため車椅子の人も車椅子で散歩に出たり、車を利用して出かける機会を設けている。家族の協力を得て、本人の思いに添って自宅に戻ったり外出を支援している。	雨の日以外は、散歩か外気浴をし気分転換を図っている。散歩の時間も季節に合わせて、冬は14時、夏は16時を目安に変更している。通院の後などに、自宅に寄ってお茶を飲んで帰る利用者もいる。選挙に行きたいとの希望があり、対応したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	初詣ではお賽銭を持っていき、一人ひとりが賽銭箱に入れた。お出かけをするときは、状況に応じて自分で買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話をつなぎ、他の入居者様に会話が聞こえないように配慮している。本人からちょっとしたお礼や報告ができるように支援している。本人が希望すれば、いつでも電話することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフと入居者様が一緒に作った壁画で季節感を味わうことができる。共有の場所は適度な広さで新聞や雑誌を読んだり、音楽が流れたり、自分の家のように自由に過ごしてもらえるようにしている。台所からホール全体が見渡せる。居室には本人の名前を表示し、トイレ等場所の混乱を招かないようにしている。	日中は、懐かしい昭和の曲を流している。食事中は職員からの提案で、落ち着いて食事が取れるようオルゴールの曲を流している。散歩時に摘んだ花を食卓に飾り、季節を楽しんでいる。コロナ対策として、オゾン発生装置を設置した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	絵画や植物、熱帯魚等で癒される居心地の良い空間を作っている。ウッドデッキがある。大型テレビとソファを設置し、入居者様同士がくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からテレビ、仏壇、思い出の品を持ちこまれ居心地良く過ごせている。持ち込みのない人は施設が協力して温かい雰囲気を出すようにしている。各居室には誕生日の色紙や写真や便りを飾るコーナーがある。	自宅から使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。化粧をする利用者は、小型の鏡台を持ち込んでいる。引き出し付きのベンチを持ち込み、面会時に座れるようにしている家族もいる。夏場は日差しが強いので、サンシェードを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせて、L字ベッド柵や手すりを増設、床にカーペットを敷く、センサーを設置する等を安全対策を実施している。本人にとって「何が分かりにくいのか」新たな混乱などをスタッフで話し合い、混乱材料を取り除き、自立支援につなげている。		